

2021年度発売の新製品&トピックス

NEW PRODUCTS 時計

G-SHOCK
GM-2100

八角形フォルムと
シンプルなデザインの
「GA-2100」に
メタルベゼルを採用

8月21日
発売

特徴的な八角形フォルムと無駄を削ぎ落したデザインで、若者を中心に全世界で人気を博している「GA-2100」をベースに新たに鍛造のメタルベゼルを採用。よりシャープでスタイリッシュなデザインに仕上げました。

NEW PRODUCTS 時計

G-SHOCK
GMW-B5000PB

パープルとブルーの
バイカラーで
黄昏時の東京の
美しさを表現

9月10日
発売

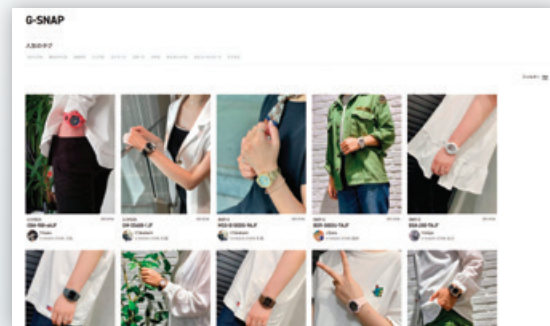
“G-SHOCK”初号機のスクエアケースをフルメタル化した「5000」シリーズの新製品。パープルとブルージェーのIPをベゼルやバンドに施し、明暗の表情が入り混じる黄昏時の東京を表現しました。

TOPICS 時計

「STAFF START」でオンライン接客を可能に
“G-SNAP”のコーディネート提案
を開始

スタッフDXツール「STAFF START」を導入し、店舗スタッフによる、コーディネート提案をはじめとしたWEBサイトを通じたオンライン接客を開始しました。

店舗スタッフが製品を着用したスナップ写真や製品の特長などを「G-SNAP」としてWEBサイト上に投稿し、ユーザーに提案。ユーザーは店舗スタッフのスタイリングやお勧めポイントを参考に、着用シーンをイメージしながら、EC機能によってその場で購入まで行えます。



一人一人のユーザーとの結びつきを大切にし、オンライン/オフラインの両方で繋がりが続けることができるような取り組みを進めてまいります。

辞書コンテンツやデジタルノート、授業支援機能を追加 『ClassPad.net』が総合学習プラットフォームへ




WEB上で関数計算やグラフ描画ができ、パソコン・タブレットでの学習に最適なオンライン学習ツール『ClassPad.net』の機能が大幅に拡充されました。電子辞書“EX-word”にて好評の辞書コンテンツに加えて、デジタルノート機能や授業支援機能を新たに備え、高校6教科を中心にどの教科でも使える総合学習プラットフォームとなりました。

今回のサービス拡充により、一人1台端末環境を実施している学校に最適なクラウド型学習サービスを提供。良質なコンテンツの数々を、パソコンやタブレット上で効率的

に活用できます。また、デジタルノートと連携し、コンテンツの項目の引用ができるほか、授業支援機能では先生・生徒間での課題の送受信も可能です。先生はオンライン上で生徒へ向けた添削なども行うことができ、学習サポートの効率が向上します。

Casiotone CT-S1

音楽を手軽に楽しみたい大人に向けた
ミニマルデザイン

電子キーボード“Casiotone”シリーズより、日常生活との調和をテーマにしたミニマルデザインの『CT-S1』を発売しました。

“Casiotone”は、「Make Music, Anytime, Anywhere (いつでも、どこでも、いい音で、自分らしく楽しめる)」というコンセプトのもと、一人でも多くの人に音楽の楽しさを届けたいという思いから、ユーザーや使用シーンに合わせた電子キーボードとして製品開発を行っています。



4月23日
発売

『CT-S1』は、本体は鍵盤・スピーカー・最低限のボタンのみで構成。好きな時に場所を選ばず触れるコンパクトサイズでありながら、豊かな表現力を持つ「AiX音源」を搭載した高音質と、新開発の音響機構による迫力あるサウンドを実現しました。別売のBluetooth®アダプターでスマートフォンやタブレットと接続することで、ワイヤレススピーカーとしての活用や、曲を流しながらの演奏など、音楽の楽しみ方が広がります。

TOPICS 新規

小型プロジェクションによる 組込領域事業を始動

現実空間にデジタル情報を表示し、拡張現実を生み出すプロジェクションARは、次世代社会の表現手法として注目を集めています。当社は、プロジェクションモジュール『LH-200』を9月上旬より発売。小型プロジェクションによる組込領域での事業を開始しました。

『LH-200』は、建物内や施設内などへの組込専用プロジェクションモジュールです。小型・高輝度により場所を選ばず多種多様な情報が投映でき、設置場所や導入するシステム用途に応じてフレキシブルに運用できるよう拡張性能を備えました。これから拡大が見込まれるスマートホーム/ビルディング/ファクトリー分野の各企業との協業を進めてお



ります。

今後も映像情報の表示が必要とされる場面への提案を積極的に行い、プロジェクションARで新たな価値を創造してまいります。

TOPICS 環境

国内電力使用量の約48%を再生可能エネルギー由来に切り替え

当社は、長期方針として「脱炭素社会の実現」を掲げており、この実現に向けて、「中長期温室効果ガス削減目標」を策定しています。2030年に向けた温室効果ガス削減目標については、科学的根拠に基づく「2℃を十分に下回る目標(Well below 2℃)」として、「SBTi(Science Based Targets initiative)」より認定を取得しています。

7月には、株式会社UPDATER(旧 みんな電力株式会社)と電力需給契約を締結。本社、羽村技術センター、八王子技

術センターなど国内6か所の事業所の電力を再生可能エネルギー由来に切り替えました。

今回の切り替え対象となる事業所の2020年度の電力総使用量は9,657千kWhであり、これは当社の国内の電力使用量の約48%、グローバルでは約21%にあたります。再生可能エネルギー由来の電力へ切り替えることで、温室効果ガス(Scope1+2)の排出量を国内で約45%、グローバルでは約17%削減できる見込みです。